

III. エノク



エノクが祈ったということについては、聖書は特に明確には記していませんが、彼が神と素晴らしい関係にあったことを示してはいます。「エノクは…神とともに歩んだ」(創 5:22)とある通りです。ここで「歩んだ」と訳されている、「ハラック」というヘブライ語の言葉は、従うこと、信奉すること、また、そこから、神と会話を交わすこと、交わることという概念を含むものです。

エノクが神と交わりを持っていたということはそういう意味であったことから、そのような翻訳となったのです。

「エノクは神とともに歩んだ。神が彼を取られたので、彼はいなくなった」(創 5:24)。

ヘブル人への手紙の著者はこの創世記の記事をさらに拡張しています。

信仰によって、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならないのです。(ヘブル 11:5-6)

エノクが神を喜ばせたという証しは、明らかにその信仰と結びついています。エノクが、神を生きただと信じていた、それを、たゆまぬ祈りと交わりで神を忠実に求めるほどにまで信じていた、と結論づけるのはもっともなことでしょう。彼は、死を味わうことなく、生きてまま地上から引き上げられるという報いをいただきました。祈ることにより、彼は直接に天に引き上げられ、信仰の殿堂(ヘブル 11章)へと入れられ、全世界の人々に語り継がれるところとなったのです。



第1章

族長たちとその時代の人々の祈り

エノク



Check!

- 『聖書の祈りが私の祈りになる』（旧約編） 52～53ページ
- 主な引用箇所 創世記5章22節、ヘブル11章5～6節

? 質問

- 1 「ハラック」というヘブライ語にはどのような意味がありますか？（52ページ参照）
- 2 エノクの信仰は、悪の時代にあっても例外的な人がいることを教えています。周りの人のせいや環境のせいせず、神との深い関係に生きるにはどうすればいいのでしょうか。
- 3 エノクはその信仰によって神を喜ばせました。彼はどのような信仰をもっていたと結論づけることができますか？（53ページ参照）
- 4 エノクの地上の歩みは短いものでした。人生は、長さ以上に主に用いられることのほうが重要です。主に用いられる人生の鍵は祈りなのです。あなたは主に用いられたいですか？
- 5 エノクのようにあなたの人生が一行でまとめられるとしたら、どのような特徴をもった人生が記録されたいですか？
- 6 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？
どんなことを実践したいと思いますか？



天の父なる神さま。周りの人々や環境のせいにするのではなく、主に用いられる生活をささげるために祈りを導いてください。あなたが生ける神だということをもっと深く教えてくださるよう。